

個々の実情を把握して保護者や児童生徒と管理や紛失の場合の責任、学校内での使用、登下校中の使用についてなど、細かい点まで話し合っ
て決めていきたいと考えています。

○平 進介議長 5番、竹田陽一議員。

○5番 竹田陽一議員 ご答弁ありがとうございます。
ました。

まず、スマホの関係なんです、このたびは
この地域の学校では原則禁止というようなこと
ではありますが、スマホの普及率が7割を超え
ているというような状況がありますので、やっ
ぱりスマホを悪い形でなくて賢く使うこともこ
れからの時代大切なというふうに思いますの
で、さらなるモラルとかマナーとかの部分につ
いては、家庭、それから生徒共々議論しながら
進めていただければなというふうに思いますの
で、よろしく願いをいたします。

次に、鳥獣被害対策関係ですが、市長からも
大変心強いご答弁をいただきました。やはり地
元では相当困っておりますので、いろいろ工夫
をしながらやっていきたいなというふうに思っ
ていますし、やはり個人だけではなかなか対応
できないので、地域全体でやっていく必要があ
るんだろうというふうに考えています。今回は
狩猟免許なども多くの方が取っていただきまし
た。これを機会に、きちっとした、例えば被害
対策協議会とか推進協議会とかいうものをつく
って、継続して取り組めるようにというふうに
考えておりますので、その辺についても今後と
も指導、支援のほうをよろしく願いしたいな
というふうに思います。

それから最後に、公共施設の適正管理の関係
ですが、現市庁舎、それから教育庁舎の利活用
についても、市長は十分考えておられるという
ことが分かりました。公共施設は、長く使って
何ぼかなというふうに思います。家庭的にも、
自分のものであれば耐用年数過ぎても幾らでも
長く使うと。それで使えなくなれば、その役割

もなくなれば処分するということにはなりますが、
耐用年数ある限りはきちっとした使い方で市民
のサービスに利用していただければなと思っ
ておりますので、よろしく願いをいたします。

以上、申し上げまして、私の質問を終わりたい
と思います。ありがとうございました。

渡部秀樹議員の質問

○平 進介議長 ここで渡部秀樹議員から資料の
配付について申出があり、会議規則第150条の
規定により許可いたしましたので、ご報告いた
します。

次に、順位14番、議席番号9番、渡部秀樹議
員。

(9番渡部秀樹議員登壇)

○9番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。
緑風会の渡部秀樹です。一般質問3日目、最終
日最後、トリとなります。一般質問をさせてい
ただきます。よろしく願いいたします。

また、本日は少し目の調子が悪いようで、眼
鏡をかけて読んでいいのやら、眼鏡を外したほ
うが見えるのやらという状況ですので、少しご
迷惑かけるかもしれませんが、先に申し上げて
おきます。

本日、9月9日、救急の日であります。長井
市にお住まいの皆様が、急な病気やけがなど
に見舞われることのないようお祈りさせていた
だきます。

また、新型コロナウイルス感染症の脅威が世
界中を襲う中、豪雨や台風の猛威が日本中に暗
い影を落としております。一日でも早く健全な
社会情勢に回復することをお祈りいたします。

今年の7月に日本中で猛威を振るった令和2
年7月豪雨の際、私も地元消防団員として土の
う積みなどを5時間、排水作業を9時間にわた

り水防活動をさせていただきました。その水防活動時に、西置賜行政組合消防士の皆様と長井市消防団員の皆様の機敏な行動、明確な指示、小気味よい連携、そして何としても、守ろう、守り切ろうとの使命感、地元愛に感動させていただきました。人口減の社会でも災害に強い地域とは、このように出来上がっていくのではないかと感じながら水防活動をさせていただきました。これから本市も台風シーズンを迎え、また水防活動があるやもしれませんが、水防活動に従事された皆様、そして奔走いただいた市長をはじめ市当局の皆様、本当にお疲れさまでした。

それでは、通告に従って質問させていただきます。質問は大きく2項目あります。順次質問させていただきますので、それぞれご答弁いただきますようよろしくお願いいたします。

1項目めは、豪雨災害等の災害対策についてであります。

近年、頻繁に起こる局所的なゲリラ豪雨や梅雨、秋雨時の停滞前線、台風による豪雨災害、さらに令和元年台風第19号に起因する10月12日、13日豪雨や本年の7月の豪雨など、気候変動による災害が頻発する可能性がある本市の災害について市長にお聞きいたします。この質問は、昨日の鈴木一則議員、赤間泰広議員の質問と重複する質問もございますが、よろしくお願いいたします。

1点目は、豪雨時にまちなかの雨水を最上川に速やかに排水するため、雨水が集中する河川の水門に出力の高い排水ポンプの設置を提案いたします。

近年の気候変動が原因と思われる数十年に一度と言われるレベルの豪雨災害が昨年10月に続き、今年、本年7月にも起きてしまいました。今後もこのレベルの豪雨が頻発する可能性があります。平成27年9月議会並びに令和元年12月議会でもお聞きいたしましたが、内水対策とし

て最上川の洪水到達時間前にいかに内水を排水できるかは重要な課題です。しかし、最上川の水位が上昇する越水を防ぐため水門が閉鎖した後は、内水による家屋の浸水被害が起きる危険性があります。

そこで、まちなかを流れる河川と南エリア、北エリアで最も雨水が流入する野呂川と木蓮川などに集溜した雨水を最上川に速やかに排水するため、雨水が集中する河川の水門に出力の高い排水ポンプの設置ができないか、再度提案させていただきます。

排水ポンプを水門に取り付けたポンプ搭載ゲート方式は、雨水が集まりやすい河川に雨水を集め水門ごとに設置された出力の高い排水ポンプで強制排水するもので、豪雨時かなりの効果が期待できると思います。設置型の排水ポンプは、豊富なパワーバリエーション、幅広い用途に応じた型式があり、豪雨時の内水による家屋の浸水被害を軽減できると思います。

また、県内には排水ポンプが数台配備されており、今後もさらに排水ポンプの配備が予定されているようですが、その件も併せて答弁のほどお願いいたします。

2点目は、水防活動に従事する消防団の装備として、緊急排水用のエンジン付水中ポンプの配備を提案いたします。

さきの質問のとおり、消防団が水防活動に従事する機会は多くなっており、令和元年台風第19号に起因する10月12日、13日豪雨に続き、令和2年7月豪雨の際にも、私自身、消防団員として市内を流れる河川から最上川本流に消防用のポンプで排水作業を行いました。消防用のポンプは少ない水で効率的、効果的に消火作業を行うようにつくられているため、排水には向かず、これでは市民生活を守れないと実際に排水作業をして痛感いたしました。

そこで、市民生活を守るため消防団に緊急排水用のエンジン付水中ポンプの配備の検討につ

いて、令和元年12月議会に引き続き再度提案させていただきます。

エンジン付きの水中ポンプの吐出量と揚程圧にもよりますが、消防用小型ポンプに比べかなり安価で、少々の泥水でもくみ上げ、吐出ができます。小さな河川であれば毎分1立方メートルほどの吐出量で、全揚程25メートルのエンジン付水中ポンプが各分団に数台配備されれば、かなりの活躍が期待できると思います。そして、もし高価な消防用のポンプが排水作業時に故障した場合、修繕が終わるまで、ポンプが故障した部、班の消防活動範囲で生活する市民の方々の生活と財産を守ることができなくなります。ご検討のほどよろしく願いいたします。

3点目は、長時間の雨水排水に使用する消防ポンプ用燃料等の備蓄量や手配について提案いたします。

議長にお許しをいただき、手元に配付させていただきました資料の上段も併せてご覧ください。

さきの質問のとおり、近年、消防団が水防活動に従事する機会が多くなっております。私自身も、先ほど申しましたが、令和2年7月豪雨の際には、地元消防団員として6か所の土のう積みと増水した河川から最上川への排水作業を7月28日午前11時過ぎから、翌29日の午前2時過ぎまでさせていただきました。その長時間にわたる排水作業時、各班のポンプの燃料は備蓄分さえも底をつき、近隣のガソリンスタンドは閉店、西置賜行政組合消防本部に備蓄されている燃料も使い切る事態が起きてしまい、遠方のガソリンスタンドまで買いに向かう団員も出てしまいました。

そこで、頻発する豪雨災害の備えとして、長時間にわたる排水作業時に使う消防用ポンプの燃料やエンジンオイルの備蓄量や手配について見直しの検討について提案いたします。

これは7月30日に行われた7月臨時議会後の

全員協議会でも取り上げていただき、様々検討しているとお聞きしておりますので、その後の対応と検討結果の確認になってしまうかもしれませんが、近年の気候変動から、いつ豪雨災害が起きてもおかしくない状況であると思います。ご検討のほどよろしく願いいたします。

4点目は、増水しやすい市街地の河川に接続する地下貯留層の整備について提案いたします。

近年、頻発する豪雨による市内のどのエリアのどの河川が増水しやすく、浸水被害が起きやすいか、傾向がつかめてきていると思います。豪雨災害時、最上川の水位が上昇すると市内河川の水門が閉まり、最上川の水位が回復し水門が開くまでの数時間は、市民生活と市民の財産を守るため堤防越しの排水作業や土のう積みをして毎回しのいでおります。しかし、市街地や平野地区を中心としたエリアの雨水が多くなると、しのぎ切れない可能性もあります。

そこで、雨水による家屋への浸水を防ぎ市民生活を守るため、増水しやすい市街地の河川に接続する地下貯留槽の整備を提案いたします。

大量の水を一時的に貯留する地下貯留槽は、様々な工法があり、コンクリート製のものやプラスチック製のものがあるようです。プレキャスト雨水地下貯留施設協会等のホームページによりますと、地下貯留槽の地上部は公園や運動施設、駐車場など多目的な利用ができるようがあります。既存の公園であれば、白つつじ公園、他には観光交流センター道の駅川のみなと長井の駐車場の地下などへ設置についても検討できるのではないかと思います。

都市化の進展により、農地や雑木林などが、コンクリートの建物や住宅、アスファルトの道路に変わり、雨水が浸透する土地の面積が少なくなっている現在は、雨水は短時間で河川に流れ込み、深刻な浸水被害を発生させる都市型水害が頻発しております。水害を予防するため、河川改修や調整池の整備を進めることはもちろ

ん、地下貯留槽等によって雨水を地下に一時的に貯留させたり、浸透させ徐々に河川に流すことにより、少しでも自然の循環システムに近づけ、浸水被害を抑制する必要があると思いますので、ご検討のほどよろしく願いいたします。

5点目は、雨水排水にも役立つ市街地の流雪溝の整備と増水しやすい河川と付近の流雪溝をつなぐ水門付バイパス間の敷設について提案いたします。

これも議長のお許しをいただき、お手元に配付させていただきました資料の上段も併せてご覧ください。

本年7月に起きた令和2年7月豪雨時に、市街地のある河川が増水し、住宅への床下浸水の危険性がありました。しかし、その河川からあふれ出る雨水を土のう積みにより、河川と並行する流雪溝に逃すことで家屋への浸水を防ぐことができました。

そこで頻発する豪雨災害から市民生活と市民の財産を守るため、雨水排水にも役立つ市街地への流雪溝の整備と、増水しやすい河川と流雪溝を直接つなぐ水門付バイパス管の敷設を提案いたします。

度々道路と同等の高さまで増水する河川と付近の流雪溝をつなぐ水門付きのバイパス管は、緊急時の河川水位をコントロールし、さらに浸水被害を抑制につながると思いますので、ご検討のほどよろしく願いいたします。

続きまして、2項目めに入らせていただきます。新型コロナウイルス感染症影響下における今後の交流観光について市長にお聞きいたします。

長井市第五次総合計画後期基本計画の観光振興分野で示されている目標として、交流人口を増加させ、地域経済に貢献する観光とありますが、この裾野の広い観光産業について、新型コロナウイルス影響下における今後の交流観光についての提案と取組についてお聞きします。

1点目は、ウィズコロナ社会の中でも、魅力的な自然や家族で楽しく余暇を過ごせるまちであることを発信しつつ、まちなかや郊外に水と親しめる親水空間、水辺空間の整備について提案します。

これも議長のお許しをいただき、お手元に配付させていただきました資料の中段も併せてご覧ください。

現在、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクをつけ、三密を防ぎ、ソーシャルディスタンスを守りながら、子供たちと河川や公園などの野外で余暇を過ごす家族連れや、週末一人キャンプ、たき火を囲みながらの軽いアウトドアを楽しむ若者が急増しております。本市のまちなかはコンパクトで使いやすく、観光交流センター道の駅川のみなど長井などの拠点やランドマークであるTASビルから、風光明媚で自然豊かなエリアや整備された河川公園まで距離も近く、ウィズコロナ社会における余暇の過ごし方に適していると思います。

これは、買物情報サービス「トクバイ」を展開する株式会社ロゴガイドが制作した、ウィズコロナ時代の生活者の旅行意識リサーチにも合致する点が多く、旅行に対する価値観・旅行先の選択基準に関する変化のポイントでは、新型コロナウイルス感染症の流行後、重視しなくなった点として、1つに、安価であればあるほどよい、2つに、海外など遠方に行く、3つに、地元など多くの人と交流。逆に新型コロナウイルス感染症流行後重視するようになった点として、1つに、にぎわいよりも混雑を回避、2つに、感染リスクをシビアに検討、3つに、少人数で行動、のように大きく転換したようです。

また、観光、宿泊、交通などの旅行関連事業者に求める取組としては、基本的な衛生対策と同様で、混雑情報の開示をはじめ混雑三密対策へのニーズが高く、1つに、移動はマイカーや自転車など、少ない人数で利用したい、2つに、

旅費は高額でも安心・安全を優先したい、3つに、目的地は国内など近場を優先的に検討したい、など、プラスの変化が起きたようです。

そこで市内の魅力的な自然や、このたび新しくなりました最上川河川緑地公園の噴水などのPRと、今後の交流観光のため、まちなかや郊外に水と親しめる水辺空間の整備について提案いたします。

2点目は、交流観光推進のため、冬期間以外の週末やイベント時に奥羽本線や米坂線の終電に合わせた山形鉄道フラワー長井線の特別列車の運行について提案いたします。

本市のまちなかの特徴として、人口に対し飲食店や居酒屋が多く、コンベンション機能を有するTASビルがあり、JRに接続する山形鉄道フラワー長井線が運行されている点が挙げられると思います。しかし、フラワー長井線の旅客機能とTASビルのコンベンション機能、そして飲食店や居酒屋などのもてなす機能は、必ずともリンクしているとは言えないと思います。仮にフラワー長井線で本市に来て、TASビルで会合をし、まちなかで飲食をする場合、終電の時間が早いため、別の交通手段で帰らねばなりません。近隣の市町から、ハンドルキーパーなしにまちなかであまたある飲食店や居酒屋を楽しんで帰宅することは難しくなります。市民の方々が他の市町に出かけた場合も同様のことが言えると思います。雪や冬の寒さの厳しい季節は抜きにして、3月の卒業シーズンから11月末頃までの期間と、ながい黒獅子まつりやながい水まつりなどのイベント時など、ニーズがあると思います。

そこで、交流観光推進のため冬期間以外の週末やイベント時に奥羽本線や米坂線の終電に合わせたフラワー長井線特別列車の運行について提案いたします。

これはタスパークホテルで行われているグランピングガーデンに近隣市町からお越しいただ

いたお客様や、長井商工会議所青年部の交流事業、市内高等学校のPTAの集まりなどでお越しいただいた方々から教えていただいたことなのですが、長井市はすばらしいコンベンション機能を有する施設と、会議、会合の慰労の時間を楽しめる飲食店や居酒屋などが多いのに、少し飲んでると終電の時間が来てしまうのもったいない。また、長井市で飲むのは好きだが、ながい水まつりになるとまち場で飲むと帰宅する手段がなくなるなど、本市は夜、飲み歩くのが楽しいまちであり、それは特性の一つでもあると思います。今後のウィズコロナ、アフターコロナ対策にもつながると思いますので、ご検討のほどよろしくお願いいたします。

3点目は、シティーホテルであるタスパークホテルなどから構成されるTASビルは、本市のランドマークであり交流観光の拠点の一つと考えるが、新型コロナウイルス感染症の影響の中、若い従業員中心に新たな企画などに取り組んでいる現状も踏まえ、TASビル全体の経営の在り方についてどのように考えているのか、また、タスパークホテル宿泊客数についてどのように捉えているのか、お聞きいたします。

これも議長のお許しをいただき、手元に配付させていただきました資料の下段も併せてご覧ください。

新型コロナウイルス感染症の影響の中、本市の交流観光の拠点の一つであるタスパークホテルでは、若い従業員を中心に新たな企画に取り組みながら、今までのスタイルにとらわれない新たな営業スタイルを模索しているようであります。本市のシティーホテルであるタスパークホテルを含む本市のランドマークタワーであるTASビルに対し、これまで以上に連携を密にしていくことが必要であると感じています。また、TASビル全体を見ると、その面積の大部分がコンベンション機能や様々な業界が使用している産業支援施設としての機能が主で、ホテ

ル機能は全体面積の13%ほどです。そのような中で、現在、本市は、一般財団法人置賜地域地場産業振興センターを通してTASビル全体に関わっておりますが、今後、本市はどのようにTASビルに関わっていくべきかなど、新型コロナウイルス感染症影響下だからこそ検討すべきことが多いと思います。

そこで、本市のシティーホテルであるタスパークホテルを含むTASビル全体の経営の在り方について、お考えをお聞きます。また、市内の宿泊施設が激減し、マラソンや駅伝、ソフトボールなどの大会時に市外にも宿泊地を求めねばならない現状と、今後さらに苦しくなると思われる状況を踏まえ、タスパークホテルの宿泊客数についてどのように捉えているのか、お考えをお聞かせください。

これは、令和元年12月議会でもお聞きした内容と重複するところもあるかと思いますが、あれから世の中は新型コロナウイルス感染症対策に追われ、激変し続けている中、少しでも光明が見いだせるようにと努力し続ける若い力が芽生えつつあるタスパークホテルとTASビルへの関わり方は重要であると思いますので、答弁のほどよろしくお聞かせ願います。

壇上からの質問は、以上になります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部秀樹議員から、大きく2点、様々な提言をいただきました。合計ですと8点にわたっていろいろなご提案をいただきました。大分具体的な提案をいただいておりますので、本来であれば私でなく担当のほうがいいのかもかもしれませんが、私のほうで全て答えさせていただきますので、もし詳細な部分分からなかった場合は、できるだけ早く答弁いたしますが、再質問していただければと思います。

まず最初に、豪雨災害等の被害対策、災害対策についてでございます。

議員からは、豪雨時、近年頻繁に起こる局地的ゲリラ豪雨や梅雨、秋雨時の停滞前線、令和元年台風19号に起因する豪雨や、本年7月の豪雨など、気候変動による災害が頻発する可能性のある本市の防災についてということで、具体的には特に水防に関することでのご提言をいただいたと思っております。

その大部分が内水に対する対応についてだというふうに思いますので、まず、せっかく私だけが答弁でございますので、全体的な考え方を申し上げさせていただきたいと思うんですが、それは昨日の鈴木一則議員やら赤間議員などにもお答え申し上げましたとおり、内水対策については、課題があると思っているのは、やはり平成25年、26年のときに、しゅんせつが十分でなかったり、あとは支障木などで思わぬ内水被害が出たというところについては、いち早くそういったところを実施して、まず、できる対応は全てさせていただいたところですが、ただ、まだやっぱり道路の下のいわゆる排水管がちょっと容量が小さくてあふれるというところが何か所かありまして、それらについては時間をかけて、あるいは用地を買収させていただいたりということで、ようやくあと一、二年で大体ネックになっているところは終わっているのかなと思っております。

あとは、特に中央地区と西根地区、致芳地区、豊田地区、伊佐沢地区ももちろんあるわけですが、平野地区については土地改良をはじめ様々なところでの地元でも対応していただいているので、内水被害は平野地区はあんまりないなというふうにちょっと安心しているところではございますが、大体は地形的なところにやっぱり起因するものがあります。もともと低いところ、水の集まる場所にやっぱりどうしても店舗や住宅があるというところについては、今回、議員から提案いただいたような排水ポンプ、水中ポンプというものがどれだけ有効なのか、これ

実はないわけですよ、そういう経験が。ですから、ぜひ、結論から申し上げますと、消防団あるいは常備消防とも相談しながら、あとは私も長井市とか置賜にはほとんどないんですけども、そういったところで効果を上げているところというのは、どっちかというところと海に近い河口口に近いところについては、これはどうしようもなくでどんどん水が集まってきますから、一方で海にも川にもはけないといったときの内水被害の対策としてやっているところがあるんですね。ただ、我々みたいに上流域ではあんまり聞かない対応なんですね。その辺のところの有効性をやっぱり確認してまいりたいと思います。

まず最初に、豪雨時にまちなかの雨水を最上川へ速やかに排水するため、雨水が集中する河川の水門に出力の高い排水ポンプの設置を提案ということでございますが、昨年12月議会の時点でも、議員から同様のご提言をいただき、答弁をさせていただいておりますが、内水対策としてはボトルネックなどの狭隘箇所の整備、河道のしゅんせつや支障木の対策、そして水路のコンクリート化が最も効果的と考えられます。確かに雨水の集まる野呂川や木蓮川などの水門に出力の高い排水ポンプを設置することは有効ですが、設置費や維持管理費等で莫大な費用がかかり、また、設置場所や作業員の安全性の確保の問題がありますので、最も効果的な対策を検討していく必要があると考えますので、これはぜひ改めて今後の検討課題ということで考えてまいりたいというふうに思います。

2点目でございますが、水防活動に従事する消防団の装備として、緊急排水用のエンジン付水中ポンプの配備を提案いただきました。

これは、昨日の鈴木一則議員のポンプの増設のご質問と答弁がかぶってしまうことをご承知おきいただきたいと思いますが、緊急排水用のエンジン付水中ポンプの配備につきましては、

移動式ポンプでも維持管理等含めた費用とか、常時どこかに保管しなきゃいけないわけですね。ですからそういう費用を要するほか、消防団のほうにも大変な負担もかけるのかなというふうに思っております、日常的に使用するものでもないために、これはやっぱり各分団というよりは、どこか市役所とかあるいは消防本部とか、そういったところに保管して、正常にいつでも利用できるようにしておいたほうがいいのか、この配備が難しいのかなと考えております。

あと、昨年12月議会の時点でも同様の答弁をさせていただいておりますが、その後の動きといたしましては、昨日も紹介しましたとおり、8月26日の山形新聞で、山形県では豪雨災害に備えて総合支庁と地域振興局ごとに排水ポンプを1台ずつ増強する旨の報道があり、実際に配置された際には、排水能力も上がるのかなと期待しているところでございますが、今ある消防団の可動式のポンプと、それからこういった排水ポンプ、その中間ぐらいのものがやっぱり必要なかというふうに思いますが、この辺のところを実際具体的に何台必要なのか、そういう場所は何台設置というか、いざというとき必要なかということもやっぱり検討して、導入する場合は台数を確保しなきゃいけませんし、どのぐらいの排水能力のものか、あとは1台当たりどれぐらいお金がかかるのか、それをどこに保管しておくのか、いざというときはどういうふうにして持って行ってもらうのかとかいうことをやっぱり連携を考えながら、これすぐに本来はしなきゃいけないわけでしょうけども、少し時間をかけて検討しなければいけないのではないかと思います。

あと、3点目の、これは実際に困ったということでの議員からの、消防団員としての経験からのご提言だと思いますが、長時間の雨水排水に使用する消防ポンプ用燃料等の備蓄量や手配について見直しをということで提案いただきま

した。令和2年7月28日から29日にかけての豪雨の際には、各水防団の皆様により市内全域に出動していただきまして、土のう積みや排水作業にご尽力をいただきました。改めてこの場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。

また、議員におかれましても、午前11時から翌日の深夜の午前2時過ぎまで作業に当たられたということで、重ねて感謝と敬意を申し上げたいと思います。

長時間にわたる排水作業で、各班のポンプの燃料や備蓄、そして消防本部の備蓄もなくなり、遠方のガソリンスタンドまで買いに行かれたということは報告をいただいております。備蓄量については、現在、各消防団各班に、これはガソリンですけれども、20リットルずつ消防本部に40リットルを配備しているところでございますが、ガソリンについては40リットル以上備蓄する場合は、西置賜行政組合の火災予防条例において、小量危険物の取扱いとなりますので、現在の各班のポンプ庫では、施設の基準上、40リットル未満しか備蓄することはできないということでございます。また、ガソリンについては、現場に配達することはできませんので、したがってガソリンスタンドまで取りに行かなきゃいけないというのが、これがネックになっているというふうに思います。

現状では、協定締結先の山形県石油協同組合長井支部に登録されているガソリンスタンドで給油、補給していただくこととなります。なお、詳細については、早急に消防本部を通じて消防団に周知させていただきますが、来週消防団の、今回の災害を踏まえての意見交換会を幹部の皆様とする予定でございますので、その際にもこういった声はお伝えをしていかなきゃいけないと思っております。

続きまして、4点目、近年頻発する豪雨災害時の備えとして、増水しやすい市街地の河川に接続する地下貯留槽の整備を提案ということで

ございますが、排水ポンプと同様に、市街地の浸水被害を軽減するには大変有効だと思います。ただ、これはかなり経費がかかるわけですね。それは東京都が新宿の地下に広大な貯留槽ですか、つくっていると。あれは何百億円ということでございますけれども、やはり下流側で海も近くてどこにも排水できないといったときには、特に都市部は地下浸水するような土じゃなくてコンクリートの地面が多いということから、やっぱり地下貯留槽というのは必要だというふうに思われます。ただし、これはかなり経費を要しますので、例えば小さい貯留槽を整備するというだけでも、立米当たり5万円ということで、2,000立米といっても大したことないんでしょうけれども、これで1億円かかるわけですね。加えて装置だけで1億円、工事費が多分これの数倍かかるだろうというふうに思いますので、やはりちょっと私ども長井のような地域にはあまりそぐわないのかなど。お考えは分かりますけれども、ちょっと難しい、これは違う方法を考えるべきだと思っております。

続きまして、5点目、豪雨災害時の雨水排水にも役立つ市街地の流雪溝の整備と、増水しやすい河川と付近の流雪溝をつなぐ水門付きのバイパス管の敷設についてのご提案をいただいております。

議員がお話しされている件は、市道10号線と木蓮川が並行する金田京染店さんの付近での水防活動だと思います。迅速な活動で周辺の家屋への浸水を防いでいただきましたことに改めて感謝を申し上げます。この区間のように、やはり河川と流雪溝が隣接するような場所、これは議員から提案いただきましたように、その用地や工事費等の経費的に問題のないところは、樋門を設置して流量調整を適切に行えば、越水対策の有効な手段の一つであると考えられますので、そういうふうなところできるところは、やっぱり必要に応じて整備していくのも大変有効

だなど考えております。

ただ、市街地での新たな流雪溝の整備や、河川と流雪溝をつなぐ水門付バイパス管の敷設の整備については、今後水路をどう整備していくのか。全体的に有効性を考えて検討しなければならないなど考えているところでございます。ただ、確かに有効な手段の一つだと思います。

続きまして、2点目の新型コロナウイルス感染症影響下における今後の交流活動、交流観光についてということで、議員のほうからは、長井市第五次総合計画の基本計画の観光振興分野で示されている目標として、交流人口を増加させ地域経済に貢献する観光とあるが、この裾野の広い観光産業について、新型コロナウイルス感染症影響下における今後の交流観光についての提案と取組についてということで、まず1点目は、ウィズコロナ社会の中でも市内の魅力的な自然や家族で楽しく余暇を過ごせる町であることを発信しつつ、まちなかや郊外に水と親しめる水辺空間の整備について提案しますということでございます。

議員からいただきました水辺空間の整備でございますけれども、コロナウイルスが蔓延する中、三密を避けるため屋外で、野外で子供たちを遊ばせる方が増えているということでございます。長井市には広い公園もあり、水辺もあり、この猛暑が続く最近は、ありがたい環境であったのかなと思います。ご質問にありました河川は市内に多いものの、水辺に親しめる空間については、そう多くはないのかなと思います。安全対策も必要ですし、水害対策、維持管理もありますので、これらを含めて水のまちを表すことができるよう考えていかなければならないと思っております。

今年は、最上川河川緑地公園、長井橋のところ、以前やはり二十数年前に整備した噴水のところ、実は危なかったんですね。あれは下がごつごつしてて、子供とか大人なんかも転んだ

りしてけがする場所があるということで、それを平面にして噴水が時間差で湧き上がるような、そういったものにして大変好評でございますが、水辺空間については、昨日、一昨日ですか、観光交流センター道の駅川のみなと長井のときもお話したんですが、長井橋のところの河川公園2ヘクタールぐらいがまだ民地で、3ヘクタールは国に買っていたいたんですね。その2ヘクタールを市で購入させていただいて、国の3ヘクタールと併せて5ヘクタールを整備すればずっとつながると。まずはTASの裏側から、そんなことを目指したんですが、やっぱり当時は、今でこそあの河川公園ということについては議会でもご理解いただけるようになったんですが、当時はやっぱり行革のときで、ろくに公園つくっても管理できないくせに、そんなものつくっても意味ないだろうというような一般的な議員の皆様の声などがございました。長井市は水のまちって言うんですが、実は長井市のまちなかで水が自由に飲める、湧き出て飲めるところみたいなものを普通は設けているんですよ。そういうのは一切ないですよ。そういう話もあんまりない。それぐらいやっぱり整備できなかったんですね。ですから、少しずつ整備していこうということで、白つつじ公園の河川、噴水から水を流して循環させているんですが、地下水なんですけども、ちょうどあそこところが濁った水で、それで非常に評判悪かったんですが、5年前でしょうか、館町北の消雪道路のボーリングをする際に、新しいボーリングで今度はきれいな水になったんですが、ああいったようなのをやっぱりもっともっと、長井市は水のまちだから、つくっていきたくて。ですから、何らかの事業のときに、そういったものを併せてつくっていくような、その取組をこれからも進めていきたくて思いますので、今後ともよろしくご助言いただきたいと思います。

加えて、長井市は、平成30年に国の重要文化

的景観の選定をいただきました。最上川上流域における長井のまち景観として認定いただきましたので、この重要文化的景観というのは、本当にそうそう簡単に国の指定をいただけるものでございませんので、この長井の人々の川や水を上手に生活の中に取り入れてきた文化とか、川や水を使用したなりわい、今もなお継承されている水路の景観などがまちの中に複合的に存在し、受け継がれていくことが評価されたというふうに認識しているわけですが、ぜひこれから、まちなかにこれをどういうふうに整備するかという宿題もあるんですね。本当にやらなきゃいけないことがたくさんあり過ぎて、先ほど小関秀一議員からもいろいろ一つ一つご指摘いただきましたけども、とてもとても大変なことですけど、一つ一つやっぱりできることからやっつけていかなきゃいけないなと思っております。

時間の関係上、少し先に進まさせていただきますが、(2)の交流観光推進のため、週末やイベント時に奥羽本線や米坂線の終電に合わせたフラワー長井線の特別列車の運行についてということで、これは大変面白いご提案であり、昔からこういうのは必要だと言われてたんですね。ただ、現状、沿線の2市2町の市長、町長は、取締役として入っていますし、あと県が筆頭株主なんですが、県の総合支庁長も取締役として入っておりますが、何しろ、どこに経験があるか分からないような第三セクターの会社です。やっぱり沿線も温度差がなかなかあって、私どもとしてはできれば、車両が今6両あるんですが、1両は使えないので5両なんですね。しかも、もう相当傷んでいて、新しい車両を買うには1億5,000万円から2億円かかると。今の車両をもっと延命させるには、やっぱり1両当たり5,000万円ぐらいかけると、あと15年ぐらいは使えると。そのお金をどう捻出するかと。結局、県をはじめ、沿線の2市2町でこれを負担しなきゃいけないと。半分の補助はいただけ

るんですね。

まず、車両がないとなかなか利便性を高めるようなことはちょっと難しいのかなと。今、フラワー長井線は全部で二十何駅でしたっけ、あるわけですけども、いわゆる快速みたいなのを走らせることもできるんですね。例えば、荒砥を出発して、長井駅で擦れ違えますんで、そこで合流して鈍行と特急に乗り継いでいくと。あと今泉駅と宮内駅と赤湯駅、これは快速でできるんですね。そうすると、赤湯まで例えば荒砥から、今ですと40分ぐらいかかっているのが、多分20分ぐらいで行くんですね。そういったことなんかもできる。

あとは、夜遅いと、今度は市役所が長井駅が一体となりましたので、ですからあそこの駅舎を開けておくのも、朝の5時半ぐらいから午後10時ぐらいまでは開けるのかなと。中に売店と飲食機能を兼ねたものも入ってもらつつもりですので、そうしたときに夜、まちなかで飲んで食事して、車じゃなくてフラワー長井線でご自宅まで帰るということも大変面白いですし、そうするとフラワー長井線で飲みに行き帰るといったことが実現できると思います。

その際ネックになりますのが、結局今泉駅で米坂線の上り下りの時間がちょっと早いんですね。そうすると、一部の期間、今泉駅から時庭の手前のところがJR専用でございまして、そこを私どもお借りしているんですね。そうすると、その時間が、それ以降は今泉駅閉めますので使えないという状況になっております。これをもう一回使えるようにするには、相当JRと調整をしなきゃいけないと思いますし、利用料などもかかってしまうというふうに、そういう意味ではハードルは高いと。ただし、これからの米坂線などを見ますと、実は今泉駅も無人化になるというふうに言われていて、いつになるかですが、多分一、二年後になるんですね。ですから、米坂線のほうがそういう状況なので、

もし仮に山形鉄道でその今泉駅の部分もある程度担わせていただくとか、何らかのそういう打開する道はあるかと思しますので、これはぜひ山形鉄道のほうにお願いして、JRのほうに交渉し、なおかつその車両は十分利用者が望めるというようなPRも含めて沿線の合意が必要なのかなというふうに思っているところです。

続きまして、最後でございますが、新型コロナウイルス感染症の影響の中、若い従業員中心に新たな企画等に取り組む本市の交流観光の拠点の一つであり、シティホテルであるタスパークホテルを含むランドマークであるTASビル全体の経営の在り方について、お考えをお聞きますというところでございます。

議員おっしゃるように、TASは、宿泊、コンベンション、食事、会議、オフィス、スポーツジムなど、複合的な機能を持った建物であり、県内でもほかには類似の施設がないという、本当に私ども長井市に誇れる施設を持っています。施設内容としましては、多機能に使えることから、これまでも国際的な会議から全国的な催物など、あるいは地域、県や市町村の行事など、非常に私ども長井市にとってはランドマークとして役に立ってきたまちづくりの拠点の建物の一つだと思います。

これまでのTASの運営については、御存じのとおり、一般財団法人置賜地域地場産業振興センターが所有する部分約5割強なわけですが、コンベンションホールをはじめ、大、中、小の会議室、貸し事務所など、多様に使える施設の貸出運営と、長井商工会議所や山形県信用保証協会長井支所の事務所として占有している部分、また宿泊施設及びスポーツジム、レストランなど、ホテルとして経営している部分ということで、それぞれが共存しながら運営してきておまして、全体として統一した経営はしてないんですが、それぞれの持分、持分で持ち味を生かして、その機能を維持してきたというの

が今までの経営でございました。

ただ、ここ10年ぐらいと言っていていいと思うんですが、特にホテル業界が非常に厳しくなった折、今から三十二、三年前にスタートした時点では、市内の飲食店や市内の宿泊施設とバッティングしない価格設定だったり、提供する食事とか、ちょっと違ったもの、長井にないものを提供しようということで、地元の飲食業、ホテルと共存共栄、あるいは逆にタスパークホテルの宿泊料金を高めに設定することによって、長井市内の宿泊施設の底上げとか、そういったことを狙ってきたんですが、途中からやっぱり、あれは市民のものだろうということで、市民が使える値段設定にしなきゃいけないんじゃないかということで方針転換をしてから、やはり市内のいろんな飲食業、宿泊と今度は競争関係になってしまったということから、少しずつやっぱり変わってきたのかなというふうに思っています。

現在では、特に市が関わっている一般財団法人置賜地域地場産業振興センターの部分で、例えば2階のシャロアとか貸し出しているんですが、それをやっぱりホテル側の都合で営業しないとか、そうしますと2階はもう完全に誰もいないみたいな状況が続きましたし、あとは市のほうの物産館も観光交流センター道の駅川のみなど長井に移して、今、インキュベーション施設にしていますが、本来はインキュベーション施設にするような場所じゃないと。ちょっともったいないと思っているんですが、そういったことから長井商工会議所が現在の一番いい場所を事務所にしてますので、リノベーションを含めもう一回あそこのTASビルの機能の在り方とか、今後の長井市の産業振興の拠点となるような、なおかつ観光交流の拠点も兼ねるといった機能をどう持たせるかということで、今ようやく検討が始まったところでございます。

タスパークホテルは、これまで長井商工会議

所がホテル部分を所有しまして、非常に苦勞して經營してこられました。ホテル經營はT A Sビル全体の活性化には重要な機能ですが、經營者は長井商工会議所だということで、長井商工会議所の考え方でこれまでも様々な収益向上の取組をタスパークホテルの社員と力を合わせてやってきたわけでございますので、市で經營指導とか、經營に対して依頼はできますけども、口出しはなかなかできないなということで、むしろ議員の皆様からいろいろご助言していただいたほうがいいのかと思っております。

6月議会では、T A S再整備基本構想策定支援業務補助金をご承認いただきまして、地場産業振興センターでシンクタンク、コンサルタント会社と契約いたしまして、長井商工会議所を含めて再整備の在り方について検討を始めたところでございます。再整備基本構想については、年度内中に經營の在り方も含めて、何らかの方向づけをして、まとめてまいりたいと思っております。

最後に、タスパークホテルの宿泊客数ですが、長井市内の宿泊施設は平成11年に19か所で830人の收容客室がありました。現在は14施設で460名前後と、大分減ってしまいました。長井市だけでは、議員おっしゃるような大きなスポーツイベントへの宿泊対応はできないという状況でございます。T A Sの宿泊可能客数は現在93名ですが、部屋の構成は、シングルのほか、ツインも多くある状況でございます。ホテル經營の側面からもシングルを増やすという考えもありますが、それでもT A Sだけでは長井市全体の宿泊者数を増やす貢献度は低いと思っております。宿泊の需要があれば、ぜひ民間投資でお願いしたいと考えており、そのため長井市中心市街地活性化基本計画を策定し、長井市立地的適正化計画を認定いただきながら、民間事業者が事業化しやすいよう、商業施設を誘導しやすいような条件整備を我々市で整えているところです。

なお、T A Sのホテル部門の宿泊客数につい

ては、再整備基本構想の中でまとめていきますが、經營的な戰略視点に立ち、部屋の構成と收容人数の検討していきたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。大変長くなりました。

○平 進介議長 9番、渡部秀樹議員。

○9番 渡部秀樹議員 様々答弁いただきました。何点か、時間ないのでかいつまんでお話しさせていただきますと思います。

まず、内水対策ですね。これは全部してくださいというわけではなく、こういう考え方もあるじゃないかという問題提起と事例のような形で話をさせていただきました。やはり經費のかかるところであるのでということ、私の中であえて文章から外しておいたところでもあるんですが、一番の排水ポンプ設置ですか、やっぱり水門につけるのは、樋門につけるのはかかる。私も費用なんかを電話で聞いて、インターネットで調べて、ああ、大分高いなと、億単位の仕事だなというのは見せていただきましたが、それもあるのかえって消防団の装備としての緊急排水用のポンプですね、比べると、こっちのほうがいいかなと、見えてくるのではないかなと思っておいて置かせていただいております。時間はかかるかもしれませんが、かなり効率がよくなると思いますし、もし消防用のポンプ壊れた場合、火災が起きたときどうしようもなくなるわけですね。

もちろん広域の消防の力は物すごいので、我々にとってはその予備のような消防団組織かもしれませんが、最終的にその現場を任されるのは、そのエリアの消防団、それはもう昔からの当たり前なことなので、空けるわけがないということがあります。ぜひご検討のほどお願いしたいと思います。

また、備蓄量に関して、また消防団のほうと打ち合わせして詰めていただくという形で、実際ガソリンがなくなって、うちの班と隣の班が

放水作業30分止まりました。その間、水はどんどん流れてくると、何ともしようがないんですね。市長に装備を充実させていただきまして、今、大雨の中でもある程度作業ができると。雪の中でも作業ができる状態になっています。長靴も新しくなりましたし、おかげでどんどん作業ができればしたいわけですね、我々は。車両も準備していただきました。であればこそ、範囲が広がったからこそできた要望だと思いますので、この辺も詰めていただきたいと思います。

また、水門のバイパス管ですか、新しいものは設置は難しいと思います。できるところからやっていただきたいと思いますという次第であります。

あと、新型コロナウイルスの影響下の交流観光なんですけども、まず、世の中の流れがアウトドアに向いてきているのと、長井市のような都市と農村が共存しているエリアというのが、やはり人が落ち着くところだと思うんですね。都会から来た方も農村を見れば落ち着きますが、やはり都市部のような雰囲気を持つエリアがないと安心して生活ができないというのが都会から来た方で、我々も都会に対する憧れはどこかにあるわけですよ。地元愛の中でそこは我慢しているところもあると思うんですけども、そういう部分を市長、気がついておられますので、水辺空間とともに演出をしていただきたいと思いますという次第であります。

また、最後のTASのほうなんですけども、今、本当に若い従業員中心で、ああでもない、こうでもない膝突き合わせていろんな会議をしているようです。いろんな企画が出ていく中で、市長もぜひ伝え聞いているし、見ていると思うんですけども、ぜひグランピングガーデンでワイングラス傾けながら、美しい夕日や夜空を眺めていただきたいなと思う次第であります。

いろいろとお願いばかりで申し訳ありませんけども、これで終わりたいと思います。

○平 進介議長 以上で一般質問は全部終了いた

しました。

散 会

○平 進介議長 本日は、これをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 3時00分 散会